

活動報告会レポート

1. 概要

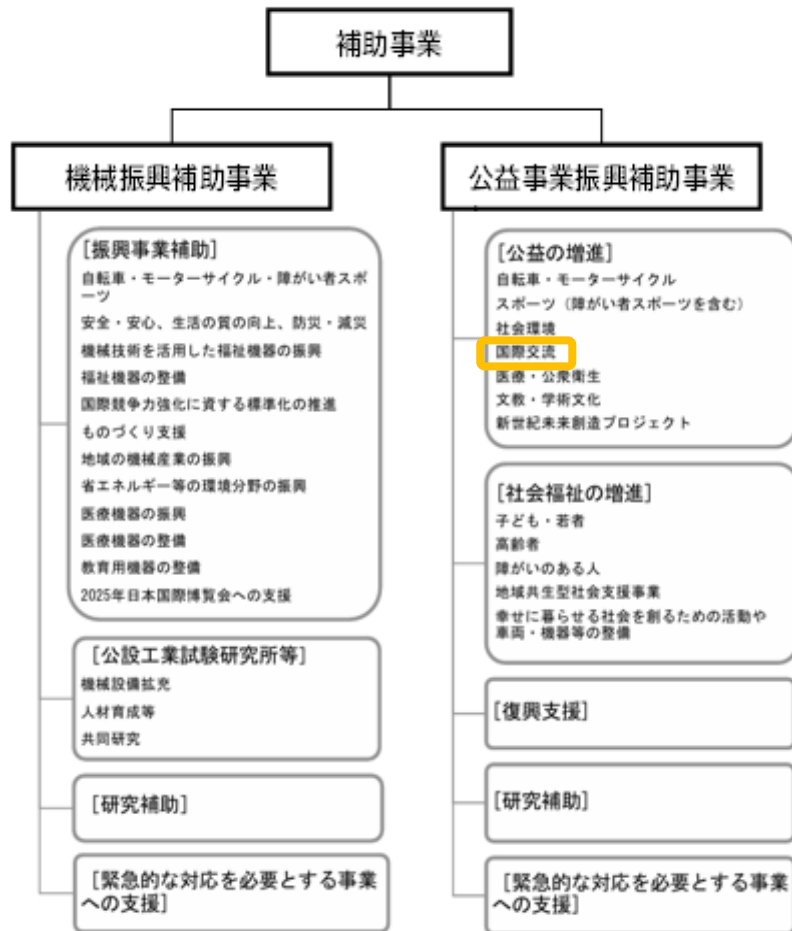
- 日 時:2025 年 10 月 11 日(土)18:00 開始 20:30 終了(開場 17:50)
- 場 所:神明いきいきプラザ集会室 B 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-6-7
- アクセス:JR 浜松町駅北口より徒歩 4 分
都営浅草線・大江戸線 大門駅下車 B1 出口より徒歩 3 分
- 参 加 費:無料
- 主なプログラム:
 - ・ JHP・学校をつくる会の活動紹介
 - ・ 活動隊によるカンボジアボランティア派遣活動報告
 - ・ 参加者同士の交流セッション
 - ・ 次回企画のお知らせ
- 参加者数:活動隊及び JHP 役職員、一般参加者(オンライン含む)の約 40 名

2. 当日のスケジュール

時間	内容
17:50	開場
18:00 ～ 20:30	オープニング(開会挨拶)
	ボランティア派遣事業を中心とした JHP 活動紹介
	個人発表 ※計 16 テーマ
	グループ交流会にむけたグループ分け
	休憩
	グループ交流会
	各グループ発表・質疑応答
	総括
	エンディング 「本日はご参加いただき、ありがとうございました。」
	次回企画のお知らせ(渡辺)、集合写真撮影
	終了⇒解散、片付け 21:30 完全撤収

3. JKA について

カンボジア体験ボランティアは、公益財団法人JKAの補助事業としてご支援をいただいています。補助事業は『機械振興補助事業』と『公益事業振興補助事業』に分かれています。本活動は、下図の公益事業振興補助事業内、【公益の増進】国際交流の競輪公益資金による補助事業としてご支援を受けて実施しています。



JKA Social Action
 競輪とオートレースの補助事業



4. 活動報告会チラシ

＼高校生～社会人19名のリアルな声を聞いてみませんか？／

2025年8月 カンボジアボランティア隊 活動報告会

10/11(土)

参加費：無料



子どもたちとの交流



ブランコ贈呈式



アート創作活動



衛生ワークショップ



ブランコの設置



折り紙

参加者たちが
自ら企画し実施した
ワークショップや
交流会など多数！

活動秘話も
お届けします！



浴衣の着付け＆
茶道体験

日時：2025年10月11日(土) 18:00 開始 20:30 終了予定 (17:50開場)

場所：神明いきいきプラザ 集会室B

〒105-0013 港区浜松町1-6-7

JR山手線・京浜東北線 浜松町駅 北口より徒歩4分

地下鉄 都営浅草線・大江戸線 大門駅 B1出口より徒歩3分

※当日、会場付近にオレンジTシャツを着用したスタッフが待機するため、迷わずお越しいただけます



お申込み方法は、QRコード先のページにてご案内しています

※オンライン配信：Zoomでの参加も可能です（音声とスクリーン映像配信のみ）

お問い合わせ：認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
〒108-0014 東京都港区芝5-14-2 LandyTamachiビル2階
TEL：03-6435-0812（月曜日～金曜日：10時～17時）
Eメール：2025cambodia@jhp.or.jp（担当：渡辺）



認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

5. 報告概要

1. Kon Vorn 氏と Kon Bunthy 氏の講話
2. トゥール・スレン虐殺博物館
3. ブランコ設置
4. ポチバラン小学校
5. 衛生ワークショップ班
6. 交流会班
7. ピームロー小学校
8. JHP プロジェクトの見学、音楽の授業体験
9. Social Compass 代表中村英誉氏の講話とワークショップ
10. CCH でのアート活動
11. うどんハウス代表楠川富子氏の講話
12. カンボジア芸術の鑑賞及び体験
13. カンボジアのマーケット
14. クラタペッパーの訪問
15. 朝散歩
16. カンボジアでの食事

6. 当日の様子



JHP 代表理事による開会挨拶



JHP 活動紹介

<活動隊の個人発表>



プランコ設置



衛生ワークショップ



CCH アート活動



カンボジア芸術鑑賞及び体験



グループ交流会



JHP 理事による総括



プノンペン事務所駐在員による総括



集合写真

7. 活動隊参加者の感想や今後の目標

平和がすべて、とコン・ヴォーンさんは最後に話しました。衣食住に困らない、便利な生活を当たり前だと思っている私たちが、先代の築いた平和に安住することなく、自らの手で平和とは何かを考え、実現していく必要がある、そう感じます。そのためのヒントをいただいた、貴重な講話でした。(社会人)

トゥール・スレン虐殺博物館を実際に訪れてみると、人間の残酷さや、それでも希望を持ち続けた人々の強さなど、多くのことを自分自身の感覚を通して知ることができました。だからこそ、五感を使って歴史を「体験として知る」ことの意義を、今回の訪問から強く学ぶことができたと思います。(大学生)

ブランコ設置の体験を通して、体力的に大変でも、協力してやり遂げれば人を喜ばせることができることを学びました。そして、日本で当たり前だと思っていた環境がどれほど恵まれているかを改めて実感しました。これからも、この学びを忘れずに、周りの人のために行動できる自分でありたいと思います。(高校生)

今回の小学校訪問を通して、子どもたちの弾けるような笑顔と前向きな姿勢に触れ、物の豊かさだけではなく「幸せ」の形について考えるきっかけとなりました。今後もこうした活動に積極的にに関わり、少しでも現地の子どもたちの笑顔につながるような支援を続けていきたいと思っています。(高校生)

これから自分がやりたいことに挑戦していく上で、異なる言語の人たちに自分の考えを伝えなければならない状況が必ずあると思います。また、そこには今回衛生ワークショップでも感じた言語の不安や失敗への不安がついてくると思います。今回のボランティアを通して気づけた、言語の壁は想像しているよりも大きいものではないこと、そして同じ時間を楽しめた時の喜び、また達成感を忘れずに失敗を恐れずにさまざまなことにチャレンジしていきたいです。(大学生)

ピームロー小学校での交流の経験を通して、私は“相手の立場に立って行動すること”の大切さを学びました。これからは学校生活や将来の進路の中でも、相手の文化や考えを尊重しながら、自分から積極的に交流していきたいです。将来は今回の経験を活かして、異なる国や地域の人々をつなげるような仕事に挑戦したいと思います。(高校生)

Social Compass 代表・中村英誉(ひでたか)さんの講義とワークショップの経験を通して、私は「環境問題や社会課題を伝えるときに、専門的な知識だけでなく、心に届く表現や参加型の仕掛けが大切」だと学びました。そして、小さな工夫や創造性が人々の意識を変える大きなきっかけになるのだと実感しました。今後は私自身も、国際協力や社会課題に関わるときに、環境を変えていくそこに住む人々に どうやって意識を持ってもらうかという視点も大切にしていきたいと思いました。(大学生)

CCHでのアート活動の経験を通して、目の前の子どもをよく理解し、一人ひとりに合わせた関わりをすることの重要性を学びました。活動の中で、現地の子どもたちの発達段階を踏まえ、ただ楽しむだけでなく自分たちで「どうすれば遠くまで飛ばせるか」を考えながら工作に取り組めるよう、事前にねらいを設定したり、コミュニケーションを工夫したりしました。

私は将来、小学校教員を目指しているため、今回のボランティアで得た学びを、子ども理解や授業づくりに活かしていきたいと考えています。(大学院生)

カンボジアでの芸術鑑賞と体験を通じて、日本の長い歴史の中で受け継がれてきた文化にも目を向け、大切にしていきたいと感じました。最近では歌舞伎をテーマにした映画「国宝」が大ヒットするといった出来事もありましたし、インバウンドの方々が増加し、日本の魅力を再発見してもらう機会も増えています。

自分が日本の伝統舞踊を踊ったり、歌ったりすることはハードルが高いですが、日本の芸術文化に関心を持ち、調べたり、鑑賞したりすることで理解を深め、いざというときに海外の方にも日本の芸術文化について説明できるようにしたいです。(大学生)

クラタペッパーの訪問を通して、私は「挑戦することの大切さ」を強く学びました。倉田さんのように日本を飛び出して世界で起業する挑戦、大学生の方のように自分の道を選び取り行動する挑戦。二人の姿から、挑戦には大きな不安やリスクが伴う一方で、自分自身を成長させ、周りの人にも影響を与える力があるのだと感じました。

私自身、まだ将来の方向性に迷うこともありますが、この経験をきっかけに、まずは小さなことから挑戦し続けたいと思います。そして、いつかは私も誰かに勇気を与えられるような挑戦ができる人になりたいと考えています。(大学生)

私がこの朝散歩で気づいたことは、日本に限らず朝から活動することの楽しさです。元気がみなぎる朝日の風景、生き生きと動く人々、このような中に私も混ざること、私自身の人生が今よりもっと生き生きとさせることができると感じました。(高校生)

私は現在教育学部で家庭科を専攻しており、高校の家庭科の教員を目指しています。今回学んだカンボジアの食文化を子どもたちに伝えることで日本と世界の違いを学び、視野を広げて欲しいと考えています。実際に、10月7日に北海道の高校でカンボジア体験ボランティアについての報告を行った際には生徒たちが日本とカンボジアの文化の違いを学び、カンボジアという国やボランティアへの理解を深めることができました。(大学生)

8. 活動報告会系の感想

報告会係が本格的に活動し始めたのは9月16日。報告会係3名で集まり、対面でのミーティングを行うところからスタートしました。8月25日にカンボジアから日本に帰国し、10月11日に報告会開催ということで、時間があるかと思いきや、あっという間に本番をむかえることになりました。

報告会の内容がより良きものになるよう、報告会係3名で繰り返し意見交換を行うことができたと思います。ほとんどの活動隊員も協力的で、JHPの渡辺さん、和田さん、水野さんのご意見も取り入れつつ、報告会直前までブラッシュアップすることができました。報告会係として、どのような内容にすれば、報告会の当日に久しぶりに顔を合わせる活動隊員たちも、報告会にお越しいただく一般参加者も、みんなで一緒に盛り上がることを考えることは、非常に楽しかったです。特に渡辺さんには直前まで丁寧に発表原稿のご確認をいただきました。深く感謝申し上げます。

報告会当日は、想像以上に多くの一般の参加者の方々にお越しいただき、活動隊員も緊張した面持ちでした。活動隊員の個人発表の前に、事務局の渡辺さんが JHP の紹介にあわせて、カンボジア滞在中のスケジュール・活動内容をご説明してくださったので、個人発表も話しやすいかったです。また後半の交流会では、活動隊員が各々、カンボジアならではのクロマーやブレスレット、ゾウのぬいぐるみといったお土産を手にしながら、一般参加者と楽しく交流することができました。個人的には交流会の時間にボランティア活動を振り返って話をしたり、質疑応答したりしたことで、改めて自分が貴重なボランティア体験をさせていただいたことを実感する機会にもなりました。交流会を通して、隊員同士、カンボジアで約 1 週間活動を共にした絆も感じられたように思います。

8 月末の帰国から少々時間が経過した 10 月に報告会を開催したことで、カンボジアでのボランティア活動について、さらに理解を深めることができました。また隊員各々がこれからの進路や将来についても言語化する機会となり、今回の経験を今後、どのように活かすか、向き合う時間になったのではないのでしょうか。報告会係として、その一役を担うことができたのであれば、良かったです。

この度は事前勉強会から、カンボジアでのボランティア活動体験、そして報告会と貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。